



2025年9月24日

各位

会社名 日本精鉱株式会社
代表者名 代表取締役社長 植田 憲高
(コード番号 5729 東証スタンダード)
問合せ先 取締役企画管理部長 大西 芳太郎
(TEL 03-3235-0021)

業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2025年5月13日に公表いたしました2026年3月期の業績予想及び配当予想を、本日開催の取締役会において、下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期業績予想の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

(1) 2026年3月期 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	34,900	3,380	3,290	2,250	919円39銭
今回修正予想(B)	40,200	5,300	5,200	3,550	1,450円59銭
増減額(B-A)	5,300	1,920	1,910	1,300	—
増減率(%)	15.2	56.8	58.1	57.8	—
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	25,179	3,598	3,531	2,456	1,004円01銭

(2) 2026年3月期 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	25,000	2,780	2,930	2,060	841円75銭
今回修正予想(B)	29,500	4,800	4,900	3,360	1,372円95銭
増減額(B-A)	4,500	2,020	1,970	1,300	—
増減率(%)	18.0	72.7	67.2	63.1	—
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	15,527	3,055	3,168	2,219	907円09銭

2. 修正の理由

アンチモン事業の主要製品である三酸化アンチモンはアンチモン地金を原料としております。

業績予想の前提としていたアンチモン地金価格が実勢と大きく乖離していることや第1四半期決算の実績を踏まえ、業績予想を上方修正いたします。

昨年9月にアンチモン地金の主要生産国である中国で、アンチモン関連品目の輸出管理が実施され、アンチモン地金価格が高騰いたしました。年初に中国当局が輸出許可を下ろした事例があったことや汎用の三酸化アンチモンは規制の対象から外れると見ていたことから、今年後半には需給が緩むと想定し、今期の計画では地金価格の平均単価をトン当たり39,500ドルと設定しておりました。

ところが、中国当局の輸出管理の取り締まりはむしろ強化されたことから、夏場の不需要期においても国際相場の下落は限定的となりました。アンチモン地金の第1四半期の平均価格トン当たり約59,160ドルに対して、第2四半期(7~9月)の平均価格は約56,500ドルにまで下がる見込みではありますが、依然高い水準にとどまっています。

当社は以前から中国依存度を減らすべく、グローバル調達を推進してまいりましたので、原料調達に支障はありませんが、製品価格値上げによる代替品への切り替えなどがあり、下期の販売数量はやや減少する見通しです。

3. 配当予想の修正

(1) 配当予想の修正内容

	1株当たり年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想 (2025年5月13日公表)	円 銭	円 銭	円 銭
			240.00
今回修正予想	170.00	170.00	340.00
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	60.00	140.00 (普通配当 100.00) (記念配当 40.00)	200.00 (普通配当 160.00) (記念配当 40.00)

(2) 修正の理由

当社は、株主の皆様への安定した利益還元を重要な経営方針の一つとして位置づけており、企業体質の改善に取り組み、持続的な成長と企業価値の向上に努めています。配当につきましては年2回を基本的な方針とし、安定的・継続的に行うように努めていきます。

2026年3月期の年間配当金につきましては、当期の業績見込み、財務状況及び成長のための設備投資や人的資本への投資などを総合的に勘案し、前回予想の1株当たり240円から100円増配し、1株当たり340円の予想に修正いたします。これにより、中間期配当金の予想を1株当たり170円といたします。

(注) 上記予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績、配当は様々な要因によって上記予想と異なる可能性があります。

以上